

チェック項目・小項目の評価基準等について（案）

1 チェック項目の評価

(1) 評価の段階

【実証事業】

A「できる」

B「できる場合とできない場合があり、指導を要する（日常的にやっていないが、やらせればできる場合を含む）」

C「できない」

- 「やっていない」

実証事業と同じ3段階評価とする。

その他、「やっていない」の言葉を適正化するとともに、「日常的にやっていないが、やらせればできる場合を含む」の意味がわかりにくかったという意見があったことを踏まえ修正。

A「できる」

B「できる場合とできない場合があり、指導を要する（実施させればできるが、日常的には実施していない場合を含む）」

C「できない」

- 「実施していない」（担当していない、評価期間中に実施しなかった）

(2) 複数回の評価の取扱

【実証事業】

1回＋日頃の評価（評価期間が1か月と短かったため）

基本介護技術については原則2回以上（訪問介護において1回であっても申請を排除することはしない）。その他は1回以上とする。

2 小項目の評価

(1) 小項目の評価を何段階とするか。

【実証事業】

「できる」

×「できない」

・×の2段階評価とする。

(2) チェック項目がどの程度できれば小項目を「できる」とするか。

【実証事業】

8割以上のチェック項目がA(できる)かつC(できない)及び「-」(やっていない)の項目がない場合

(「できる」となった被評価者の割合については、別添のとおり)

実証事業においては、「やっていない」があると小項目が「できない」となることについて違和感ありという意見があったが、制度としての信頼性を確保する観点からは、実証事業と同様とする。

ただし、「福祉用具の使用を前提とした項目」及び「リーダーシップ」の「ローテーション(シフト)組み(施設の場合のみ)は例外とし、小項目評価の要件とはしないこととする。

3 レベル認定について

(1) レベル認定要件をどのように考えるか

すべての中項目が「できる」ことを要件とする。

(2) 小項目がどの程度できれば中項目を「できる」と評価するか。

すべての小項目が「できる」場合とする。

ただし、以下の場合については、実施状況を見つつ、小項目を評価せず、レベル認定の要件としないことも検討する。

・「感染症発生時に対応できる」について感染症発生時対応を要しなかった場合

・「終末期ケア」について終末期ケアを行わなかった場合

・「地域包括ケア」について地域包括ケアを行わなかった場合

また、「身体拘束を行わざるを得ない場合の手続きができる」について身体拘束を全くしていない場合については、小項目を評価せず、レベル認定要件とはしないこととする。

小項目が「○」となった被評価者の割合

No	大項目	No	中項目	No	小項目	「○」となった被評価者の割合 (%)				
						全体	レベル1 (n=83)	レベル2 ① (n=163)	レベル2 ② (n=202)	レベル3 (n=305)
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	1	入浴前の確認ができる	55.7%	34.9%	42.9%	60.9%	67.2%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	2	起居の介助ができる	43.4%	21.7%	35.6%	45.0%	54.4%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	3	一部介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	14.2%	7.2%	12.3%	11.9%	19.3%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	4	全介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる	20.9%	7.2%	18.4%	15.3%	30.5%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	5	車いすの移動ができる	60.6%	48.2%	53.4%	64.4%	68.2%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	6	杖歩行の介助ができる	20.7%	12.0%	18.4%	17.8%	27.2%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	7	一部介助が必要な利用者の衣服の着脱ができる	36.1%	24.1%	24.5%	36.1%	47.2%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	8	全介助が必要な利用者の衣服の着脱ができる	38.3%	25.3%	31.3%	39.1%	46.9%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	9	洗体ができる(浴槽に入ることを含む。)	23.9%	15.7%	19.0%	23.3%	30.2%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	10	一部介助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる	14.7%	6.0%	11.0%	12.9%	21.0%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	11	全介助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる	19.6%	10.8%	14.1%	19.3%	25.9%
I.	基本介護技術の評価	1	入浴介助	12	清拭ができる	29.1%	10.8%	24.5%	35.1%	33.8%
I.	基本介護技術の評価	2	食事介助	1	食事前の準備を行うことができる	47.6%	28.9%	39.9%	51.5%	56.4%
I.	基本介護技術の評価	2	食事介助	2	座位で食事をする際の姿勢の介助ができる	56.3%	32.5%	48.5%	60.9%	66.6%
I.	基本介護技術の評価	2	食事介助	3	寝たまま食事をする際の姿勢の介助ができる	26.7%	13.3%	23.9%	28.7%	31.8%
I.	基本介護技術の評価	2	食事介助	4	食事介助ができる	34.7%	18.1%	28.8%	33.7%	44.6%
I.	基本介護技術の評価	2	食事介助	5	口腔ケアができる	34.6%	7.2%	32.5%	37.1%	43.0%
I.	基本介護技術の評価	3	排泄介助	1	排泄の準備を行うことができる	60.8%	41.0%	48.5%	66.8%	71.5%
I.	基本介護技術の評価	3	排泄介助	2	トイレ(ポータブルトイレ)への移乗を行うことができる	53.8%	38.6%	49.7%	54.5%	62.3%
I.	基本介護技術の評価	3	排泄介助	3	トイレ(ポータブルトイレ)での排泄介助を行うことができる	44.7%	34.9%	38.0%	41.1%	55.4%
I.	基本介護技術の評価	3	排泄介助	4	体位変換ができる	43.8%	26.5%	37.4%	44.1%	53.8%
I.	基本介護技術の評価	3	排泄介助	5	おむつ交換を行うことができる	61.0%	34.9%	51.5%	68.8%	70.8%
I.	基本介護技術の評価	4	状況の変化に応じた対応	1	咳やむせこみに対応ができる	5.2%	0.0%	3.1%	5.9%	7.5%
I.	基本介護技術の評価	4	状況の変化に応じた対応	2	下痢の場合に対応ができる	21.9%	12.0%	19.0%	24.3%	25.6%
I.	基本介護技術の評価	4	状況の変化に応じた対応	3	便・尿の異常(血便・血尿など)に対応ができる	22.7%	9.6%	20.2%	29.2%	24.3%
I.	基本介護技術の評価	4	状況の変化に応じた対応	4	皮膚の異常(炎症・表皮剥離・水泡・潰瘍等)に対応ができる	34.4%	18.1%	27.0%	40.6%	40.3%
I.	基本介護技術の評価	4	状況の変化に応じた対応	5	認知症の方がいつもと違う行動(攻撃的行動、突発的行動、対応が困難な行動等)を行った場合に対応ができる	24.5%	8.4%	14.7%	25.2%	34.8%
II.	利用者視点での評価	1	利用者・家族とのコミュニケーション	1	相談・苦情対応ができる	14.0%	10.8%	16.6%	19.8%	8.2%
II.	利用者視点での評価	1	利用者・家族とのコミュニケーション	2	利用者特性に応じたコミュニケーションができる	34.6%	21.7%	27.0%	34.2%	39.0%
II.	利用者視点での評価	2	介護過程の展開	1	利用者に関する情報を収集できる	43.8%			40.7%	63.0%
II.	利用者視点での評価	2	介護過程の展開	2	個別介護計画を立案できる	33.5%			29.2%	55.6%
II.	利用者視点での評価	2	介護過程の展開	3	個別介護計画に基づく支援の実践・モニタリングができる	35.5%			33.1%	50.6%
II.	利用者視点での評価	2	介護過程の展開	4	個別介護計画の評価ができる	33.3%			30.2%	50.6%
II.	利用者視点での評価	3	感染症対策・衛生管理	1	感染症に対する標準予防策や自己管理を講じることができる	45.0%	27.7%	39.3%	49.5%	47.5%
II.	利用者視点での評価	3	感染症対策・衛生管理	2	嘔吐物、汚物処理の対応ができる	25.5%	9.6%	20.9%	28.7%	29.5%
II.	利用者視点での評価	3	感染症対策・衛生管理	3	感染症発生時に対応できる	22.8%	9.6%	17.2%	22.8%	28.5%
II.	利用者視点での評価	4	事故発生防止ができる	1	ヒヤリハットの視点を持っている	36.9%	30.1%	33.1%	49.0%	33.4%
II.	利用者視点での評価	4	事故発生防止ができる	2	事故発生時の対応ができる	22.2%	14.5%	27.0%	33.2%	13.4%
II.	利用者視点での評価	4	事故発生防止ができる	3	事故報告書を作成できる	19.3%			17.4%	29.6%
II.	利用者視点での評価	5	身体拘束廃止	1	身体拘束廃止に向けた対応ができる	20.5%			18.4%	32.1%
II.	利用者視点での評価	5	身体拘束廃止	2	身体拘束を行わざるを得ない場合の手続ができる	8.5%			6.9%	16.0%
II.	利用者視点での評価	6	緊急時対応	1	緊急性に応じた対応ができる	7.4%	3.6%	6.1%	8.4%	6.6%
II.	利用者視点での評価	6	緊急時対応	2	緊急事態発生時に、医療職や上司に連絡し、指示を仰ぐことができる	16.4%	6.0%	9.8%	19.3%	18.0%
II.	利用者視点での評価	6	緊急時対応	3	緊急事態発生時に家族への連絡ができる	7.0%	1.2%	2.5%	6.9%	7.5%
II.	利用者視点での評価	7	終末期ケア	1	終末期の利用者や家族の状況を把握できる	16.6%	6.0%	10.4%	19.8%	17.4%
II.	利用者視点での評価	7	終末期ケア	2	終末期に医療機関との連携ができる	15.0%	10.8%	17.2%	23.3%	9.2%
III.	地域包括ケアの評価			1	地域内の社会資源との情報共有	6.3%	2.4%	3.1%	0.5%	8.2%
III.	地域包括ケアの評価			2	地域内の社会資源との業務協力	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
III.	地域包括ケアの評価			3	地域内の関係職種との交流	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
III.	地域包括ケアの評価			4	地域包括ケアの管理業務	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
IV.	その他		リーダーシップ		現場で適切な技術指導ができる	28.4%				33.3%
IV.	その他		リーダーシップ	2	ローテーション(シフト)を組むことができる	36.8%				43.2%
IV.	その他		リーダーシップ	3	部下の業務支援を適切に行っている	35.8%				42.0%
IV.	その他		リーダーシップ	4	評価者として適切に評価できる	12.6%				14.8%